演題番号: P4-1	筆頭名:村嶋智明	筆頭所属名: 藤田保健衛生大学　医学部耳鼻咽喉科学教室

共著者名:

伊藤　周史、三村　英也、内藤　健晴

共著者所属:

藤田保健衛生大学医学部耳鼻咽喉科学教室

演題名: 季節性アレルギー性鼻炎に対するプランルカスト水和物の有用性

【背景および目的】　2011 年のスギ・ヒノキ科花粉飛散シーズンにおける花粉症患者を対象に鼻の 3 大症状(くしゃみ、鼻漏、鼻閉)、後鼻漏、咽喉頭異常感、嗅覚障害および QOL についてロイコトリエン拮抗薬(プランルカスト水和物)の初期治療の有効性について臨床的に検討を行った。また、後鼻漏と咳嗽の関係についても検討を行った。【対象と方法】藤田保健性大学病院および関連病院を受診したスギ・ヒノキ科花粉症患者 24 例を対象とし、2011 年の名古屋市におけるスギ・ヒノキ科花粉の飛散状況により初期治療群 17 名、飛散後治療群 7 名と 2 群に分けた。その上でロイコトリエン拮抗薬であるプランルカスト水和物 1 カプセル(112.5 ㎎) 1 回 2 カプセルをそれぞれに 1 日 2 回経口投与し、鼻の 3 大症状(くしゃみ、鼻漏、鼻閉)、後鼻漏、咽喉頭異常感および嗅覚障害については花粉症症状日記を用いて、また QOL については WPAI-AS(活動性障害調査票)を用いて仕事および仕事以外の日常生活への影響に関して、それぞれスギ・ヒノキ科花粉飛散終息まで評価した。【結果】　鼻の 3 大症状のうち鼻閉、後鼻漏および嗅覚障害の重症度はロイコトリエン拮抗薬の初期治療によって有意に抑制された。ＱＯＬについて仕事および仕事以外の日常生活の両者ともにロイコトリエン拮抗薬の初期治療によって有意な改善を認めた。スギ・ヒノキ科花粉症患者において後鼻漏の有無と咳嗽の性質の間に有意な関係は認められなかった。